主題：ノア、ダニエル、ヨブ――
命の路線において勝利を得る命を生き、神のエコノミーを完成する模範

メッセージ　6

ノア（4）

復活における生活（2）

王国の影

聖書：創 9:1-7, 18-27．マタイ 16:18-19．ヨハネ 3:3, 5．ローマ 14:17．啓 11:15

Ⅰ．ノアと彼の家族は復活における生活をし、この復活における生活は王国の影でした――創 8:4, 18．9:1-7：

A．洪水の後の新しい人種のかしらとして、ノアは神の下にある代理権威でした。これは神の王国の影であり、その実際は召会生活の中にあり、その出現は千年期における王国にあります――創 9:6．マタイ 16:18-19．ローマ 14:17。

B．新しい地での人々の間における神の与えられた権威を伴う支配は、復活の生活における神の王国の統治を表徴します――創 9:6．ヘブル 12:28。

C．神の行政においてノアは良い模範でした。彼は間違いを犯し失敗しましたが、それにもかかわらず強くあって行政上語ることで神を代行しました――創 9:18-27。

D．サタンは人を横領し、神の与えられた人の権威を誤用させて諸国民を形成しました――10:8-10．11:1-4。

Ⅱ．新約は神の王国の書です。新約全体は王国についてです――マタイ 3:2．4:17．啓 11:15．12:10：

A．神の王国は、神がご自身のご計画を成し遂げる神聖な領域です。それは神がご自身の権威を行使して彼が意図することを達成する領域です――マタイ 6:10。

B．神の王国は神の支配、統治であり、その祝福と享受を伴っています――33 節．ルカ 12:32．コロサイ 1:13。

C．神が受肉するとき、主イエスは来て神の王国を設立し、神が彼の権威を行使して彼の目的を遂行することができる領域を確立しました――ヨハネ 1:1, 14．3:3, 5．18:36。

D．新約は王国の方法で福音を宣べ伝えます。福音は王国のためであり、福音は宣言されて、反逆した罪人が救われ、資格づけられ、装備されて王国に入るようにします――マルコ 1:14-15．マタイ 4:17．使徒 8:12。

E．神の永遠の王国は行政におけるキリストの増し加わりです――マルコ 4:26-29．ダニエル 2:34-35, 44。

F．神の王国は、命の種としての主イエスが彼の信者たちの中にまかれ、発展して、神が彼の王国として彼の神聖な命の中で支配することができる領域となることです――ルカ 17:20-21．マルコ 4:3, 26。

G．神の王国は主イエスの実際の輝きです。彼の輝きの下にいることは、王国の中にいることです――9:1-2。

H．神の王国は神聖な統治の領域だけでなく、神聖な種族の領域でもあり、その中にす

べての神聖な事柄があります――ヨハネ 3:3, 5:

1．神は人と成って人の種族の中に入りました。人は神格においてではなく命と性質において神となり、神聖な種族の中に入ります―― 1:12-14．ローマ 8:3．1:3-4。

2．神聖な領域、神聖な種族の領域に入るために、わたしたちは神から生まれて神聖な命と性質を持つ必要があります――ヨハネ 1:12-13。

Ⅰ．王国は今日の召会生活です。ですから、召会生活を実行することは王国を実行することです――ローマ 14:17。

Ｊ．召会の働きは神の王国をもたらすことです――マタイ 13:43．6:10．12:22-28．啓 11:15．12:10。

Ｋ．王国は召会を生み出し、召会は王国をもたらし、その究極の結果は新エルサレム、すなわち新天新地における永遠の神の王国です―― 21:1-2, 10．22:1, 5。

Ｌ．常に神の王国を自分の前に置く（それは神のみこころと神の敵に触れる）者は、神の御手の中で最も有益な働き人です――マタイ 6:33．7:21．25:21, 23．コロサイ 4:11。

Ⅲ．神の権威をもって神を代行する人（代理権威）は、以下の資格を持っていなければなりません：

Ａ．彼は権威に服従しなければなりません――マタイ 8:8-9。

Ｂ．彼は自分には何の権威もないことを認識しなければなりません―― 28:18．Ⅱコリント 10:8．13:10。

Ｃ．彼は神と神のみこころを知らなければなりません――エペソ 1:9．5:17。

Ｄ．彼は自己を否む者でなければなりません――マタイ 16:24。

Ｅ．彼は主と一であり、絶えず主との親密な交わりの中に生きている者でなければなりません――Ⅰコリント 6:17．1:9．Ⅰヨハネ 1:3。

Ｆ．彼は主観的ではなく、自分の感覚にしたがって行動してはなりません――Ⅱコリント 3:5。

Ｇ．彼は人を取り扱うことで親切で恵み深くなければなりません――ルカ 6:35．参照、ローマ 5:15-16．Ⅰコリント 2:12。

Ｈ．彼は復活の中の人であり、キリストの復活の命の中で生きていなければなりません――Ⅱコリント 1:9．4:14．民 17:1-10。

Ⅰ．彼は神の御前に低い場所を取らなければなりません―― 14:5．16:3-4，22，45．マタイ 11:29．ローマ 12:16．ルカ 14:7-11．Ⅰペテロ 5:5-6。

Ｊ．彼は違犯を耐え忍ばなければなりません――出 16:7．民 14:2, 5, 9, 27．マタイ 6:14-15．Ⅰコリント 4:6-13。

Ｋ．彼は自分には能力がなく、ふさわしくないという意識を持っていなければなりません――出 3:11．4:6-7, 10．Ⅱコリント 3:5．Ⅰコリント 15:10。

Ｌ．彼は正しく神を代行する者でなければなりません――民 20:2-13．Ⅱコリント 5:18, 20．エペソ 6:20。

©2005 Living Stream Ministry

「権威と服従」からの抜粋

わたしたちは、権威に服従する人とならなければなりません。そうしてはじめて、わたしたち自身が代理権威となることができます。
すべて代理権威となる人は、自分は神を代理する権威にすぎず、自分自身の中には何の権威もないことを、覚えておかなければなりません。
わたしたち自身には絶対に何の権威もありません。
神以外には、全宇宙において権威を持っている人はだれもいません。
あなた自身の中に何か権威があるなどと考えたりするように欺かれてはなりません。あなたの中に権威の源があるなどとは、決して考えてはなりません。神だけが権威を持つ唯一の方であり、他のだれも権威を持っていないことを、あなたは永遠に覚えておかなければなりません。
人がどれだけ権威を代理するかは、その人がどれだけ神のみこころと思想を認識しているかにかかっています。
代理権威となるためには、人はまず、自分が代理する人をよく知らなければなりません。
神があなたの決定を承認してくださる時はじめて、あなたは権威を持つことができます。
すべてあなた自身から出たものには、何の権威もありません。
あなたは、自分自身の中には何の権威もないことを認識しなければなりません。
神の代理権威となる人は、自分を否まなければなりません。
主はまずわたしたちの自己を徹底的に砕かなければなりません。そうしてはじめてわたしたちは、神の代理権威となることができます。
神は、わたしたちが神の権威を「代理する」ことを求めておられるのであって、わたしたちが神の権威に「置き換わる」ことを求めておられるのではありません。
交わりが、権威となるための基本的な資格です。
神の代理権威となる人は‥‥主との継続的で親密な交わりを持たなければなりません。
人が自分の権威のために語り、自分のために権威を打ち立てようとするなら、それは最も汚れたことです。だれも自分自身の権威を立てることはできません。
自分を権威に打ち立てることはすべて､わたしたちの間から根絶されなければなりません。
すべての権威は、神に立てていただくべきであって、自分自身の権威を立てようとしてはなりません。
他の人が自分について語っていることを知って、腹を立てたり、憤ったり、自己弁護したりする人は、代理権威となる資格がありません。
自己弁護する人には、何の権威もありません。
人が自分は権威であると思えば思うほど、さらにその人は権威らしくなくなります。
代理権威は、自分自身の感覚にしたがって行動してはなりませんし、自分自身の事を顧みたり、自己中心的な人であってはなりません。
神の代理権威は、恵み深い者たちです。
人に対して恵み深いことは、代理権威の一つの品性です。他の人を義で対処する人は、代理権威となる資格はありません。
権威の根拠は復活です。

わたしたちが権威であるかどうかは、わたしたちが死と復活を経過したかどうかにかかっています。わたしたち自身の中には、わたしたちを霊的権威として他の人と異ならせるものは何もありません。

復活が意味することは、すべてのものが神からであって、わたしたちからではないということです‥‥復活が意味することは、すべての事は神によってなされるのであって、わたしたちによってなされるのではないということです‥‥あなたは復活の原則を妨げるやいなや、権威を失います。あなたは自分の権威を展覧しようとするやいなや、直ちに権威を失います。

あなたは復活を持つ時、権威を持ちます。なぜなら、権威は復活の中にあるのであって、天然の命の中にあるのではないからです。

復活から出て来るものだけが、権威です。権威は復活に基づいているのであって、わたしたち自身に基づいているのではありません。

復活の命の中で円熟した者だけが、神の代理権威として振る舞うことができます。復活の命がわたしたちを通して表現されればされるほど、さらにわたしたちは権威を持つようになります。

権威が神を正しく代理することは、とても大切なことです。

権威を代理し損ねることほど、重大で厳粛なことはありません。

わたしたちは神の権威を執行するたびごとに、自分が神に結合されるよう神に祈らなければなりません。

人の権威は、その人の務めを根拠としています。そしてその人の務めは復活を根拠とします。復活がなければ、務めもありません。務めがなければ、権威もありません。

権威が務めを越えるやいなや、それは地位の権威となります。それはもはや霊的なものではありません。

代理権威となる人は、自分は神の御前では神のすべての民と同様に低く、卑しい者であるという立場を取るべきです。

もし人が自分の権威をいつも意識しているなら、その人は権威となる資格がありません。

神が立てられた権威とは、妨げを受け入れることのできる人です。彼は、妨げを被ることのできる人です。もしあなたの受けた権威がどんな妨げも被ることができないのであれば、あなたは権威となる資格はありません。

人が権威になることを願えば願うほど、あるいは偉い人になろうと願えば願うほど、わたしたちはその人に権威を託すことができなくなります。神の権威になりたいと願っている人には、神は決して権威を与えられません。

自分自身をふさわしくない者と見なし、自分自身を役に立たない者と見なす人が、権威となる資格のある人です。

代理権威についての主要な事は、神を代理するということです。

代理権威とは、権威を「代理」する者であって、権威を「行使」する者ではありません。

ウオッチマン・ニーによる「権威と服従」

©2005 Living Stream Ministry